

アヌココロ アイヌ イコロマケシル ソンコ

アヌアヌ

国立アイヌ民族博物館ニュースレター



NATIONAL AINU MUSEUM

ANUANU

022

2026.1



巻子の修復を進める様子

国立アイヌ民族博物館 第9回テーマ展示

収蔵資料展イコロ^{イェエレフ}-3-

絵画資料はどうやって修理をしたのか？
展示では見えない「裏側」の仕事について
紹介します。

詳しくは2ページへ！👉

エントランスロビー展示
バルセロナ「aynu展」
新館長 ご紹介
見て見て！ 園内サイン⑩

国立アイヌ民族博物館からのお知らせ
トピック
ウポポイってこんなところ⑱

国立アイヌ民族博物館 第9回テーマ展示

収蔵資料展 イコロ

イェエレブ

-3-

国立アイヌ民族博物館は「先住民族であるアイヌの尊厳を尊重し、国内外にアイヌの歴史・文化に関する正しい認識と理解を促進するとともに、新たなアイヌ文化の創造及び発展に寄与する」という理念のもと、アイヌ文化の展示や調査研究、資料収集及び資料保管、教育普及等の業務を行っています。今回のテーマ展示では、昨年度の収蔵資料展に続く企画として、収蔵資料の収集や修理を中心に博物館の舞台裏を紹介する展示

としました。近年、当館が収蔵した資料や修理が完了した資料の公開を通じて、後世へアイヌ資料を伝える取り組みをご覧いただけますと幸いです。



蝦夷国風図絵(屏風装) 修理前



蝦夷国風図絵(屏風装) 修理後

会期 2026.1.10^土 → 2.23^{月祝}

休館日●1/13(火)、1/19(月)、1/26(月)、2/2(月)、2/9(月)、2/16(月)

会場 国立アイヌ民族博物館 2階 特別展示室

【主催】国立アイヌ民族博物館

【後援】公益社団法人北海道アイヌ協会

【協力】株式会社文化財保存、公益財団法人元興寺文化財研究所

※イェエレブ…アイヌ語で3番目という意味です。

1章：資料を収集する

- ▶ 近年の購入資料の紹介
- ▶ 近年の寄託資料の紹介

● 収集・寄託資料の紹介



【タマサイ(首飾り)】

ガラス玉を連ね先端に大きなガラス玉やシトキ(金属の飾り)を付けた首飾り。球形や円柱形の小玉、横方向に微細な筋がある大玉が観察できます。この痕跡から、小玉はガラス管を裁断してつくる技法、大玉はガラス管を巻き付けて球形にする技法で制作されたと推測できます。一つの資料から複数のガラス玉の作り方が観察できる資料です。



【シントコ(行器)】

アイヌ語でシントコと呼ばれる行器。内、外を黒漆で塗り、表面には蒔絵で複数の植物の意匠を描いています。蓋や脚部には金具を付けて装飾していますが、ところどころに黄色く光る箇所があります。元素分析を行うと金と水銀が検出され、水銀蒸着で金を鍍金した金具を装飾していたと推測できます。本資料はほぼ完成形であり、制作技術の一端を知ることのできる資料です。



【衣服(樹皮衣)】

幅約0.5mmという非常に細い糸で織られた衣服(樹皮衣)です。織り目は緻密できれいに整えられており、背の模様は刺繍は一筆書きで玉止めなどが見当たらない丁寧な仕上がりになっています。袖口は千鳥掛けのような技法で綴じられています。袖の刺繍は、刺繍をした後で袖が仕立てられており、縫い合わせの箇所に模様のズレがないなど高度な技術がうかがわれます。



袖口の端部を縫い留めている

2章：資料を修理する

▶ 修理した資料の紹介 / 蝦夷国風図絵(卷子装、屏風装)の修理



卷子を解体し、裏紙の新調や折れた部分の処置を行いました。
蝦夷国風図絵(卷子装)



屏風を解体して絵画面を外し、欠損の補紙や剥落留めなどの処置を行いました。
蝦夷国風図絵(屏風装)

詳しくは当館ウェブサイト
特設ページをご覧ください



関連イベント Event

関連イベントについては変更する場合があります。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。

ギャラリートーク

展示の見どころや博物館の活動を紹介するツアーです。資料を後世に伝えるための収集・保存・修復作業についてお話しします。各回で解説する内容が異なるため、何回でもお楽しみいただけます。

- 【日時】1/10(土) 14:00~14:30
- 1/17(土) 14:00~14:30
- 2/ 7(土) 14:00~14:30
- 2/14(土) 14:00~14:30

バックヤードツアー

博物館の活動の一つである資料の収集・保存。日々、資料の整理や診断を行っている当館職員の見学ツアー。日々の資料の整理や診断を行っている当館職員の見学ツアー。日々の資料の整理や診断を行っている当館職員の見学ツアー。

- 【日時】1/24(土) 14:00~15:15 ※受付:13:30~

講演会

今回展示する蝦夷国風図絵(卷子装・屏風装)の修理について、株式会社文化財保存の吉岡宏氏より、絵画や古文書類といった文化財の修理技術である“装漢修理技術”についてお話をいただきます。

- 【日時】1/31(土) 14:00~15:00

【講師】吉岡宏氏(株式会社文化財保存 代表取締役)

※株式会社文化財保存は、東洋の絵画・書跡を中心に、さまざまな文化財の保存や修理に携わる修理工房です。国宝や重要文化財を含む多数の文化財の保存修理実績があります。

国立アイヌ民族博物館 第7回エントランスロビー^{てんじ}展示

カタルーニャの彫刻家

エウダル・セラと アイヌの出会い



会期 2026.1.20^{TUE} → 3.29^{SUN} 休館日●毎週月曜日※祝日または休日の場合は翌日以降の平日
※2/28(土)～3/9(日)は休館

【主催】カタルーニャ州政府 日本事務所、国立アイヌ民族博物館

本展示では、エウダル・セラが1947(昭和22)年に北海道を訪問した際の、白老とその周辺、旭川・近文でのアイヌ民族との出会いや、セラ自身の芸術・収集活動を紹介いたします。

エウダル・セラ・イグエイ(1911年～2002年)は、1930(昭和5)年から1935(昭和10)年にかけてバルセロナ^{しほせう}で修業したアヴァンギャルド^{ぜんえいけいしゆつ}(前衛芸術)な彫刻家で、1935年来日し、1948(昭和23)年まで滞在しました。

1937(昭和12)年以降は、民藝運動^{たいてい}の活動などを通じて、日本の民芸品やアイヌ文化に強い関心をもち、1947(昭和22)年には、かねてより望んでいた北海道への旅を実現しました。セラが北海道滞在中に制作した彫刻、絵、写真や、セラが収集したアイヌ民族に関わるさまざまな資料^{しりょう}は現在カタルーニャを中心に保管されています。



宮本イカシマツクの頭像をつくっているエウダル・セラ/
セラ相続人蔵

セラは白老周辺にて森久吉^{もりきゆうきち}、知里真志保^{ちりましほ}と、宮本イカシマツクとその家族に出会いました。その後、旭川・近文にて、セラは川村カ子^{かわむらかこ}の自宅^{まね}に招かれ、滞在中、主だったアイヌたちと出会いました。滞在の最終日には、イオマンテ^{いおまんて}(熊の霊送り儀礼)に参加しました。



セラが撮影したイオマンテ/セラ相続人蔵



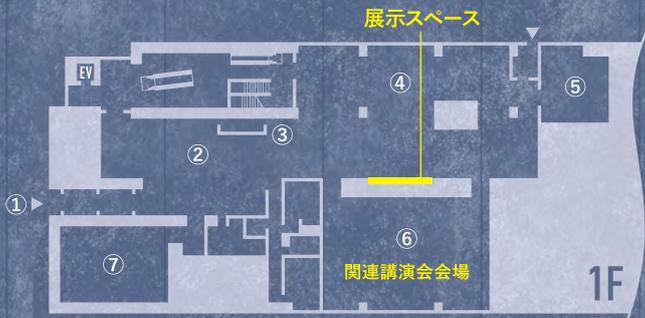
セラが入手した白老の子どもの描いた絵/セラ相続人蔵



エウダル・セラの北海道旅行記/セラ相続人蔵



宮本夫妻の家の外観/セラ相続人蔵



- ①セマパ / 正面玄関
- ②アパ サム / エントランスロビー
- ③アスルコロ ウシ / 総合案内
- ④イコロマケンル イホク ウシ / ミュージアムショップ
- ⑤カンピソシ ヌカラ トウンブ / ライブラリ
- ⑥ウウェネウサラ トウンブ / 交流室
- ⑦イノカ ヌカラ トウンブ / シアター

《エントランスロビー展示》
かん れん こう えん かい
関連講演会 事前予約制

2026.2.21 SAT 10:00-12:00 会場:博物館 1階 交流室

10:00-10:40
「カタルーニャにおけるアイヌ関連資料」
カサド・バルド・ケラール (国立アイヌ民族博物館) 言語:日本語

10:40-11:00 / コーヒーブレイク

11:00-12:00
「エウダル・セラとアイヌ民族」
リカル・ブル (バルセロナ自治大学) 言語:英語(日本語の逐次通訳あり)

詳しくは当館ウェブサイトをご覧ください。

バルセロナ
民族学・世界文化博物館 **aynu**展
“Aynu. Una cultura indígena del Japó”

会期 2025.12.18 THU → 2026.6.14 SUN
会場 Museu Etnològic i de Cultures del Món (バルセロナ市)

2025年12月から、バルセロナの民族学・世界文化博物館(以下MuEC)にて、当館との共同企画によるアイヌ民族をテーマとした特別展が開催されます。当館にとって初の海外開催となる展覧会であり、またバルセロナにおいてもアイヌ民族を主題とする展覧会は初めてです。本展では、アイヌ民族の言語や歴史、文化、そして世界観を、伝統と現代の両方の視点から紹介します。

MuECのホワイエでは、本展の導入として、エウダル・セラに関する紹介展示も見られます。セラは、アイヌ資料の収集や博物館への寄贈等によって、現在のMuECにおけるアイヌ関連資料のコレクションの礎を築きました。



Museu Etnològic i de Cultures del Món



アットウン / 個人蔵



自澤徹(アイデンティティ) / 当館蔵

詳しくはこちら



国立アイヌ民族博物館の第7回エントランスロビー展示「カタルーニャの彫刻家エウダル・セラとアイヌの出会い」とバルセロナの民族学・世界文化博物館での「aynu」展は、「日本・カタルーニャ交流年」のプログラムの一環として開催されています。2つの展覧会の開催は、2023年度から当館のチームが行ったアイヌ関連資料の調査研究プロジェクトにおいて、カタルーニャに保存されていた貴重な資料の調査を進めつつ、同地のさまざまな組織や人物との接触を地道に試みた成果です。

新館長 ご紹介

の もと まさ ひろ 野本正博

ポ ン レ : レ タ ン レ ク

ニックネーム：白い髭（レタラ=白い/レク=髭）

※ポンレはウポボイで使用しているアイヌ語のニックネームです。

※アイヌ語の音韻規則により、「レタラレク」は「レタンレク」と発音することがあります。

PROFILE

1963(昭和38)年生まれ、62歳、白老町出身。

アイヌ文化の生活用具・儀礼用具の制作技術をもつ実践的な伝承者として、

旧アイヌ民族博物館時代より、伝統技術の継承、国際的な文化交流を通じて、

アイヌ文化の発信と後進の人材育成の基盤づくりに貢献。

国内外のアイヌ文化展の企画・制作や博物館運営、

文化振興事業の企画立案にも長年取り組んでおり、

2012(平成24)年からは国立アイヌ民族博物館の構想に

委員として関与するなど、博物館の設計・展示計画にも造詣が深い。

| 西 暦 | 経 歴 | 博物館沿革 |
|-------------|---|--|
| 1985年 | ポロトコタン(財団法人アイヌ民族博物館※1)に勤務。アイヌ文化の伝承と人材育成の基盤をつくる。 | |
| 1999年 | 国内外のアイヌ文化展の企画・制作に携わり、自ら展示作品を制作。 スミソニアン国立自然史博物館特別展「AINU: Spirit of Northern People」※2の展示制作部門に参加し、アイヌの交易船「イタオマチブ(板綴舟)」を制作。 | |
| 2009年 | | 「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会」報告において、今後のアイヌ政策の「扇の要」として「民族共生象徴空間」が提言される。 |
| 2012年 | 常務理事と兼任で旧アイヌ民族博物館長に就任。アイヌ文化の復興等に関するナショナルセンター「民族共生象徴空間」の中核施設、「国立アイヌ民族博物館」の構想づくりに委員として携わる。 | アイヌ政策関係省庁連絡会議において、「民族共生の象徴となる空間」の基本構想と象徴空間における整備、取り組み等の方向性が明らかとなる。 |
| 2015年 | | 文化庁が「国立のアイヌ文化博物館(仮称)基本計画」を策定する。 |
| 2018年 | 一般財団法人アイヌ民族博物館と公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構が合併し、「公益財団法人アイヌ民族文化財団」が発足。 | 「民族共生象徴空間」整備のため旧アイヌ民族博物館が閉館。 |
| 2019年 | 民族共生象徴空間(ウポボイ)運営本部文化振興・体験交流部長に就任。 | 民族共生象徴空間の愛称が一般投票により「ウポボイ」に決定。 |
| 2020年 | | ウポボイの中核施設として国立アイヌ民族博物館が7月12日に開館。 |
| 2023年 | 財団理事と兼任で民族共生象徴空間運営本部 副本部長に就任。 | |
| 2025年 7月 | 民族共生象徴空間運営本部 副本部長と兼任で国立アイヌ民族博物館館長に就任。 | |

※1 旧アイヌ民族博物館 ※2 現在も同館の北太平洋諸民族の文化と交流史の参考資料として展示されている。

就任のご挨拶

イランカラナテ！

国立アイヌ民族博物館は、この夏、開館5周年を迎えました。当館はこれまで、「先住民族であるアイヌの尊厳を尊重し、国内外にアイヌの歴史・文化に関する正しい認識と理解を促進するとともに、新たなアイヌ文化の創造及び発展に寄与する」という理念のもと、アイヌ文化の展示、調査研究、教育普及、人材育成、資料整備等に取り組んできました。

ウポポイは、国立民族共生公園、国立アイヌ民族博物館、慰霊施設からなる、アイヌ文化復興の拠点となるナショナルセンターです。しかし、肝心のアイヌの歴史・文化の理解促進にしても、先住民族アイヌとしてのアプローチも、また、組織としても始動したばかりです。けれども、5周年を迎えた現在、これまでの研究成果は基本展示に表れ、さらに特別展示やテーマ展示では新たな視点を示すことができるようになってきました。また、ウポポイの強みとして、博物館活動とフィールドに広がる伝承活動が連動し、研究と伝承が両輪となって働きはじめたところです。

これにより、最新の研究成果は、伝承活動や体験交流プログラムにも反映されはじめています。このような活動は、海外の先住民族機関や博物館等からも注目され、交流や視察を目的とした来館が増加しています。それは単に一過性のものではなく、博物館協定や学術包括連携(MOU)の締結にも及んでいます。私がウポポイで働き、心から楽しいと感じているのは、海外の先住民族に出会えることです。その独創的な考え方や、特に資源管理の取り組みなどから刺激を受け、新たなアイデアが生まれたりもします。過去はどうあれ、先住民族と博物館の関係は、新しい形に発展する可能性をもっていると思います。

国立アイヌ民族博物館は単体ではなく、ウポポイ全体として皆様からの理解や協力を得ながら、先住民族としてのアイヌの歴史と文化が尊重され、誰にとっても利用しやすく、親しみを感じていただけるような博物館を目指してまいります。

イヤイライケレ

見て →
見て!
園内 ↑
サイン

ウポポイの園内サインをご紹介します、皆さまにより広くアイヌ語を知っていただくコーナーです！

10 イトノンテ トウンブ 授乳室

イトノンテ トウンブは「授乳室」という表現です。イトノンテが「お乳を飲ませる」「授乳する」、トウンブが「部屋」という意味になります。粉ミルクが普及する前の時代は、母乳が出ない(または不足している)際、「乾燥させ蓄えておいたどんぐり(カシワ)を粉末状にし、それを水に溶いて赤ん坊に吸わせた」「ツルニンジンの根を煎じて母親が飲み、その煎じた汁で乳房を冷やした」などという記録が残っています。授乳期は荷物も多く外出をためらいがちですが、ウポポイには博物館1階とエントランス棟の2カ所に授乳室とおむつ替えスペースをご用意しています。気兼ねなくご利用の上、思う存分ウポポイをお楽しみください。(企画調整課 荒田このみ)

※参考文献
知里真志保『知里真志保著作集 別巻II 分類アイヌ語辞典 人間篇』(1975年、株式会社 平凡社)、p.255



イトノンテ トウンブのサイン



博物館の授乳室

国立アイヌ民族博物館 第10回テーマ展示

「ケレヤン、ヌカラヤン、ヌヤン
さわる、みる、きく 国立アイヌ民族博物館2」

【会期】2026年3月14日(土)～5月17日(日)

【会場】国立アイヌ民族博物館 特別展示室 【主催】国立アイヌ民族博物館

国立アイヌ民族博物館では、「誰もが楽しめ、基本展示をより深く理解できる」をテーマとした展示を開催します。
基本展示室でも紹介している民具などに実際に触れられる展示や、ウポポイでの活動の紹介、点字や手話による解説を予定しています。

TOPIC

TOPIC 1 当館製作 シアター映像「普段着のアイヌ」
映文連アワード2025受賞

博物館1階シアターにて4月より上映を開始したシアター映像作品『普段着のアイヌ』が「映文連アワード2025」にて「ソーシャル・コミュニケーション部門 優秀企画賞」を受賞いたしました！



「普段着のアイヌ」監督OKI氏(左)と当館館長 野本正博

TOPIC 2 国際先住民族博物館シンポジウム
開催のお知らせ

国立アイヌ民族博物館は、アメリカ、オーストラリア、フィンランド、日本国内の先住民族博物館から館長らをゲストにお招きし、2026年2月7日(土)、8日(日)の2日間で「国際先住民族博物館シンポジウム」を開催します。本シンポジウムでは、各地の先住民族博物館の事例を共有しながら、博物館の新たな役割について検討します。



©The Sámi Museum SIIDA

70分番組1

連続公開プレゼンテーション：各館の取り組みを紹介
日時：2026年2月7日(土) 10:00～16:30

70分番組2

公開シンポジウム
日時：2026年2月8日(日) 13:00～16:30



※両日とも日英の同時通訳が入ります。

詳しくは当館ウェブサイトをご覧ください。

ウポポイ 19

さまざまな表情をみせる
ウポポイの1年を紹介します。



Spring

一年中
楽しめるポピ



ウポポイPRキャラクター
トウレットポイン



チッサンケ(舟おろしの儀礼)
湖水開きでGWイベント開幕。



畑おこしの体験も。



みんなで踊ったり、夜空にランタンを浮かべたり。
夏休みは一日中楽しめるイベントがいっぱいでした。



Summer



Fall



秋はおいしいものやアートが大集合！



「アイヌアートショー」(10月)
大阪・関西万博の公開作品が
道内で初展示されました。



冬の風物詩、職員がつくる
サッチェブ(干し魚)。
寒干しは大切な作業。



幻想的なイルミネーションも。

Winter



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館

<https://nam.go.jp/>



民族共生象徴空間

■お問い合わせ

公益財団法人 アイヌ民族文化財団(ウポポイ内)
住所：〒059-0902 北海道白老郡白老町若草町2丁目3番1号
電話：0144-82-3914 FAX:0144-82-3685
メール：info@ainu-upopoy.jp

※アヌアヌは、アイヌ語で「もしもし」の意味です

国立アイヌ民族博物館ニュースレター「アヌアヌ」第22号 編集・発行：国立アイヌ民族博物館 2026年1月発行 印刷：TOPPAN株式会社 ISSN 2435-8207

プログラム等の詳しい情報は
ウポポイウェブサイトをご覧ください。

ウポポイ 検索

<https://ainu-upopoy.jp/>

